棚田ワークショップ通信

発行
2010年11月20日
島根県立大学
林秀司研究室
電話 0855-24-2234

「ワーキングホリデー・イン・室谷」を実施しました

さる9月28日～29日に、中山間ふるさと・水と土保全推進事業の棚田ワークショップの一環として、「ワーキングホリデー・イン・室谷」を実施しました。

ワーキングホリデーとは、本来、二つの国の間で、お互いの国の青少年の相互理解のために、一定期間の休暇を過ごす活動とその間の滞在費を補うための就労を認める制度。この企画は、その応用で、島根県立大学の学生に地域の活動を支援してもらいながら、農村の魅力も体験してもらおうというものです。

アイディアは早い段階からありましたが、具体的に企画を練り始めたのは9月に入ってから。地元、両谷連合自治会と浜田市三隅支所産業課の協力を得て、急ピッチで準備を進めました。

当日は、呼びかけに応じた男子学生6名が参加しました。

実践する活動は遊休農地の草刈りです。上室谷集会所で、地元協力者の皆さんと顔合わせの後、自分たちで刈払機の刈刃を交換。現場に移動して10時30分から作業を始めました。参加者は、皆、経験があったので、順調に作業は進行したものの、学生のひとりがスズメバチに刺されるという事故が発生。地元協力者の皆さんの的確な処置のおかげで事なきを得ました。

一日目の草刈り作業は、昼食をはさんで、午後2時30分頃に終了し、学生たちはコワ温泉へ。食材の買い出しを済ませ、夕方からバーベキューの準備をしました。

▲ワーキングホリデー・イン・室谷
草刈り作業のようす

▲ワーキングホリデー・イン・室谷
交流会（バーベキュー大会）のようす

学生だけの取組にしたくないという思いがありましたので、夕食は、交流会を兼ねたバーベキュー大会としたところ、地元の皆さまからは大量の差し入れを頂戴し、交流会には青年団を中心として、多くのご参加をいただき、楽しいひと時となりました。

宿泊は、上室谷集会所を使わせていただきました。レンタルの寝具をもち込み、ざこ寝です。

二日目、朝食も学生たちの自炊です。午前8時頃から朝食。集会所のあとかたづけを終えて、9時15分頃から草刈り作業を再開。途中、休憩をはさんで、作業した時間は、正味1時間程度だったでしょうか。10時30分には作業を終えました。最後のあとかたづけの後、すべての日程を終えました。

今回の取組はささやかなものでしたが、何より、この実験的な取組が実現したこと自体がひとつの成果だったと思われます。これを参考にして、持続可能な仕組みを構築していきたいものです。

●参加した学生の声

今回の取組は準備期間が少なく、正直不安を抱えながら始まりましたが、地元の皆さまの非常に親切丁寧な対応に救われました。今後も、今まで以上に地元の皆さまと連携を図り地域活性化の礎を作っていきたいです（Y・F）。

●地元の皆さんの声

・棚田まつりをひかえた時期に草刈りをしてもらって感謝している。
・少し作業時間が少なかった。もっと広い範囲の草刈りができるとよい。
・二泊三日か三泊四日くらいが適当だと思う。
・このような取組が定期的にできると助かる。自分たちの意識改革にもなる。

第4回棚田ワークショップを開催します

きたる12月1日に、第4回棚田ワークショップを開催します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

○日時　12月1日（水）午後7時から
○場所　上室谷集会所
○内容　地域の将来像と棚田の保全管理のあるべき姿を考え、その実現のための課題を整理する（予定）

棚田ワークショップ通信

発行
2011年2月18日
島根県立大学
林秀司研究室
電話 0855-24-2234

第4回棚田ワークショップを開催しました

さる12月1日に、上室谷集会所において、中山間ふるさと・水と土保全推進事業の第4回棚田ワークショップを開催しました。当日は、地元の皆さん8名、浜田市三隅支所、および、島根県浜田県土整備事務所からそれぞれ1名ずつ、島根県立大学から学生2名、教員1名が出席し、地域の将来像と棚田の保全管理のあるべき姿を考えるとともに、その実現のための課題について話し合いました。

▲第4回棚田ワークショップのようす

その結果、ふるさと教育が必要であること、定年帰農も含めて、やる気のある就農希望者を受け入れる必要があること、グリーン・ツーリズムの活用も考える必要があること、さらに、これらの活動をコーディネートする人材が必要であることなどが議論されました。

第5回棚田ワークショップを開催します

きたる3月5日に、第5回棚田ワークショップを開催します。今回、最終回となりますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

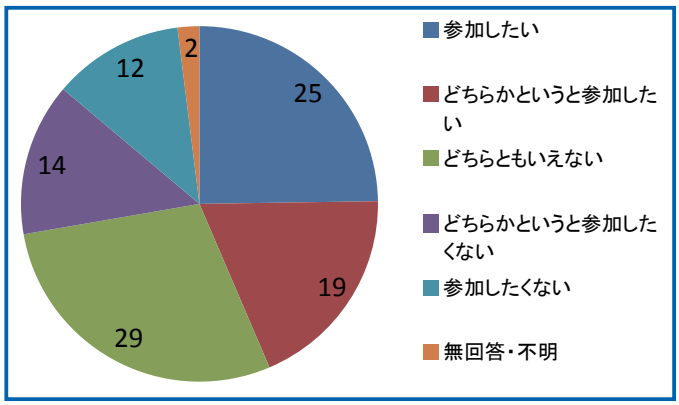
○日時　3月5日（土）午後7時から
○場所　上室谷集会所
○内容　これまでの議論をふまえて、地域の将来像と棚田の保全管理のあるべき姿を実現するための体制づくりについて話し合います（予定）。

棚田保全と地域づくりについての意識調査結果

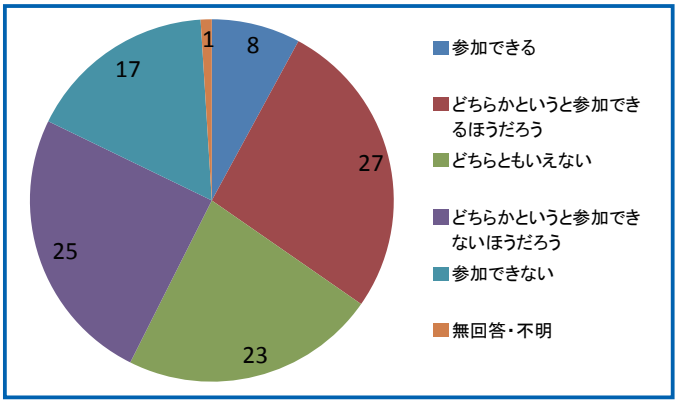
昨秋、実施させていただきました「棚田保全と地域づくりについての意識調査」には皆さまのご協力を得て、102通の回答をいただきました。

地域づくりの活動に参加したいかという希望を問う質問には、「参加したい」「どちらかというと参加したい」という回答が全体の44％を占め、地域づくりへの比較的高い参加意識が明らかになりました。

地域づくりの活動に参加できるかという現実を問う質問には、「参加できる」という回答が8％と、少なくなり、「どちらかというと参加できるほう」を合わせても、全体の35％で、希望にも関わらず現実の参加は減少する傾向が明らかになりました。



▲地域づくりの活動に参加したいか
（N＝101）



▲地域づくりの活動に参加できるか
（N＝101）

その他に、室谷地区の望ましい将来像や、そのために行うべきことについて自由記述式の質問をしたところ、回答数は多くはなかったものの、さまざまな意見が寄せられました。具体的な意見は、第4回棚田ワークショップにおいて報告しました。

とくに、地域づくりについての参加意識については、より詳細な分析も可能かと思われます。これについては、自由記述の意見と合わせて、報告書に取りまとめる予定です。

あらためて、この調査にご協力くださった皆さまにお礼申し上げます。